

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月1日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670103276号
法人名	株式会社 プロGRESS
事業所名	グループホーム 愛愛
所在地	鹿児島市川上町2751番地16 (電話) 099-244-8876
自己評価作成日	平成23年7月31日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

- ・緑に囲まれた静かな環境で、四季の移り変わりを感じる事ができる。
- ・主治医を含めた関係医療機関による24時間体制の連携を取っており、日々の生活を安心して送ることができる。
- ・排泄パターンの把握に取り組んでおり、できうる限りおむつやポータブルトイレなどを利用せず、最後までトイレにて排泄が行えるように支援している。
- ・施設長を含めた職員と利用者が協力して家庭菜園を育てており、栄養士が中心となって計画を立てながら育った野菜を使った食事を提供している。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年11月7日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

鹿児島市北部の閑静な住宅地に建てられている「愛愛」は、開設して9年目の地域でも中核的な存在のグループホームである。法人は他にも訪問介護や通所介護事業所を運営しており、地域の高齢者をサポートしている。広々とした敷地には家庭菜園が作られ、利用者と共に収穫を楽しみ食材をふんだんに使った栄養バランスのとれた食事を提供している。ホームに閉じこもらないメリハリのある日常生活を送れるように、家庭菜園の手入れや散歩や買い物、ときには庭にテーブルを出して、お茶を飲みながら午後のひとときを過ごすなどしている。また、外食や弁当持参で季節の花見などにも出かけ、普段行けないような場所へも外出支援を行っている。家族の来訪も多く、ホームの行事(運動会やクリスマス会など)の準備や片づけにも協力的である。また、アンケートを実施して、行事やサービスについての意見や評価をもらうなど、サービスの質の向上に活かされるように取り組んでいる。運営推進会議も全家族に浸透しており、毎回、多くの家族の参加で意見や提案、今後の改善点などが話し合わせ、充実した会議となっている。ときには認知症の勉強会も行い、家族も一緒になって利用者を支えているグループホームである。協力医療機関による利用者の健康管理や筋力低下予防のための生活リハビリ、自立支援、排せつの自立に向けた支援などホームでの生活が継続できるように管理者、職員は日々のケアに邁進している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設時に作成された理念に基づき、地域密着型サービスとしての意義も考慮して理念を作成している。職員は毎朝の申し送り時に唱和を行い、その意味を理解しながらケアの実践に取り組んでいる。	「なじみの環境で自由な生活」との文言に地域密着型サービスの意義が含まれている。理念は玄関や室内、職員用トイレ、事務所に掲示し、パンフレットや重要事項説明書にも明記されている。毎朝、職員全員で唱和して理念に基づいたケアに取り組み、毎月のミーティング時に理念を振り返り再確認することもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、夏祭りや敬老会など事業所のイベントへの参加を働きかけると同時に、保育園児の訪問やボランティアの受け入れなど地域の方との交流がある。	町内会に加入して老人クラブの生き生きサロンや回覧板を回すなど、利用者も地域の一員として交流している。また、管理者は総会に出席し、事業所が孤立しないようにはたらきかけている。保育園児との交流や高校生の実習の受け入れも行うことで子ども達との交流もあり、近所の子供たちが気軽に立ち寄って遊んで行くこともある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域包括支援センターと吉野地区のグループホームが協働し、認知症の地域理解を深めるための活動を行なっている。また、運営推進会議委員へ町内会・民生委員の方々の参加を頂き、勉強会などを実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自己評価の取り組みや施設の現状・行事活動の報告、意見交換会を行っている。	運営推進会議は2ヵ月に1回、町内会長・民生委員・吉野分遣隊職員・家族・職員・行政などの参加で開催している。毎回、家族の参加が多く、ときには、認知症の勉強会も行っている。ホームの状況報告や参加者からの意見、要望、評価、助言をもらいサービス向上に活かしている。	

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センター主催の地域ケア会議への参加や、入居希望者のご紹介を頂いたりと連携が取れている。また、介護相談員の受け入れも行っており、実情報告を行っている。</p>	<p>運営やサービスについて相談しながら、積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束ゼロを目標に全職員で取り組んでいる。利用者の突発的な動きを常に念頭に置き、日中は施錠をせずに安全で自由な暮らしを支援している。</p>	<p>身体拘束ゼロ宣言を玄関に掲げ、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠などせずに、職員間の連携で安全で自由な生活を送れるように支援している。外出したい利用者には職員がついて行くなどして対応している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する勉強会を行い、虐待に関する理解を深めると同時に、法令遵守に向けた取り組みを行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修参加やミーティング時の勉強会にて機会を設け、制度の理解を深めている。また、利用者の必要性に応じて、制度を活用できるように支援していきたい。</p>		

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退居前には、必ず利用者及びご家族との話し合いの場を設けている。また、十分な説明を行なうと同時に、理解及び納得して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者と1対1で話す機会を定期的に作るよう心がけている。また、ご家族面会時に意見や要望・苦情などを引き出せるように努め、アンケートの実施や意見箱を設置し運営に反映させている。</p>	<p>ホームの催し物に家族の参加が多く、相談などを気軽にしてもらえるような関係が築かれている。また、アンケートを実施して行事やサービスについて評価をもらい、ホームのサービス向上に活かしている。結果は全家族に報告している。また、面会時や電話連絡時などでも意見、要望を聞くようにしている。利用者からは、日常の会話の中から意見、要望を引き出すようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者を含めた職員ミーティングにおいて、各職員の意見や悩み・要望等を話し合うようにしている。加えて、代表者と職員との話し合いの場も増やせるように要望中である。</p>	<p>毎朝夕の申し送り時や毎月のミーティング時に意見交換や話し合いを行っている。また、資格取得の支援も行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員は自己の目標を持ち、資格取得などに励んでいる。代表者には事業所の勤務状況や努力実績を把握して頂き、職場の環境や条件の改善に努めて頂きたい。</p>		

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年度ごとの研修計画を作成し、職員の研修参加への機会は確保されている。研修内容は、報告書の作成やミーティングでの勉強会などによって全職員が把握できる体制を整えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会など他事業所と交流する機会を設け、意見交換会などを行っている。また、地域の事業所が集まり勉強会やネットワーク作りを始めたが、多忙からか最近の開催がなく残念に思っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や試し体験を通して、少しでも早く事業所の雰囲気慣れて頂けるように努めている。また、利用に至るまで利用者と係わる時間を多く作り、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでにご家族と直接お話をする機会を設け、希望や要望を受け止めると同時に、利用者の生活を協力して支えていけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や見学を通して、その状況に応じたサービスの利用を提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学び教えて頂ける場面を作り、相互に思い合い信頼できる、同じ目線、立場に立ったケアができるように努めている。		

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えるのはご家族であり職員であるということ念頭において、面会や電話連絡、毎月のお便りなどで情報交換を綿密に行い、ご家族と一緒に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の要望があれば、できる限り実現できるようにご家族や友人に協力をお願いし、訪問したり来訪して頂く事で関係が継続できるように支援を行っている。	地元出身の利用者は町内会行事に積極的に参加できるように支援している。友人・知人の訪問も多く、出入りしやすいように配慮している。手紙や電話などで家族や知人との関係継続の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に共有の時間を持ち、必要であれば職員が間に入ることで孤立しないように努めている。利用者それぞれの個性を見極め、支援が必要な場合はサポートを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培ってきたご縁であるので、契約終了後も大事にしたいという思いがあり、必要に応じて面会に出かけたりお声をかけさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の生活暦や性格などの情報を基本としつつ、毎日のケアの中で利用者の気持ちをお聞きしている。困難な場合は、表情や言動、ご家族からの情報などを参考に、利用者本位で検討を行っている。	声かけや訴えの傾聴に心がけ、日常の会話や表情や言動などから個々の思いや意向を把握し、安心して過ごせるように支援している。新規採用者には利用者の性格、身体状況等の情報を詳しくまとめたものを作成して把握してもらうように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者やご家族からの聴き取り、ケアマネジャーからの情報提供などできる範囲で情報収集を行い、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とは日々コミュニケーションを図り、利用者の生活リズム、心身状態を把握するように努めている。また、毎朝のバイタルチェックを行い、職員間での情報共有にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の言動を基に、利用者・ご家族・主治医の意見や要望を含めてミーティングを行い、全職員で時間をかけて介護計画を作成している。	利用者、家族、主治医からの要望や意見を聞き、職員間での情報交換をおこない、現状に即した利用者本位の介護計画を作成している。家族の絆を大切に、関係が途切れないように家族の協力を意識し、共に利用者を支えていく介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアの実践や結果、気づきや工夫を記録する気づきノートを作成し、職員間で情報を共有することで介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎、利用者の健康管理と日々の様子を見守り、早期の体調変化への気づきや主治医への連絡相談を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防、町内会など協力支援体制があり、安心安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。また、ボランティアや保育園児との交流、研修生の受け入れ等も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、かかりつけ医や協力医療機関と連携を取り、24時間対応が可能な体制を整えている。	主治医、協力医療機関、事業所の良好な協力関係を築いている。2週間に1回の往診と24時間対応も可能な体制が築かれている。	

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師等に、状態変化やちょっとした気づきをいつでも気軽に連絡、相談できる関係にあり、その後の適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を中心に、他医療機関とも綿密な情報交換を行っており、早期の受診や入院で重篤化を防ぐように努めている。入院後も定期的に面会を行い、状態確認や退院に向けた情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族を含めたターミナルケアについての勉強会及び意見交換会を行っており、現在の事業所としての対応方針も説明している。最善の対応が取れるように関係機関との連携強化に努め、職員のスキルアップを行なっている。現在、利用者の入れ替わりがあったため、早急に話し合いの場を設ける必要がある。	協力医療機関の医師による終末期における勉強会及び意思確認のためのアンケートを実施して、家族の意向を聞いている。ホームとして出来る限りの支援をしていく方針ではあるが、現在の職員体制を見極めた話し合いが再度必要な時期である。	アンケートで家族の意向は確認しているが、現状の職員体制でホームが出来る最大限の支援について全職員で話し合い、家族に分かりやすい内容での説明ができるように今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成している。また、消防指導による定期的な応急手当、心肺蘇生、AED使用などの訓練も行なっている。		

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練を定期的に行なっている。また、地域住民にも緊急時の避難や見守りなどの協力をお願いしている</p>	<p>年2回昼夜間想定で避難訓練を行っている。地域の方々も避難訓練に参加しており運営推進会議に分遣隊の職員も入って話し合いを行うなど、地域との協力体制を築いている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や尊厳を損ねることのない声かけや対応を心がけている。また、プライバシーへの配慮にも十分に注意を払っている。	利用者からの訴えがでることもあり、個々に応じた声かけに心がけている。日常、気づいたことはその都度注意して職員の資質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな事でも利用者に相談し、話し合っ得して頂き、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の性格や生活リズムに合わせて過ごして頂けるように心がけ、職員側のペースではなく利用者の希望にそって過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日常の身だしなみや服装は、利用者の好みを取り入れながら一緒に行っており、季節に合わせたおしゃれや訪問理容なども利用できるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けだけでなく、献立を職員と一緒に考えるなど利用者も楽しみにされている。また、職員も同じテーブルにて食事を摂ることで、会話を交えた楽しい食事を行なっている。	個々の力量に応じて準備や片づけなど職員とともに行っている。ときには気分を変えて庭でお茶をしたり、外食を楽しんだりしている。家庭菜園で採れた食材をふんだんに使い、栄養士の職員によるバランスのとれた献立で職員と利用者は会話をしながら食事を楽しんでいる。タイミングが合えば家族も一緒に食事をしてもらうこともある。	

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行うと同時に、栄養士による献立作成や食事形態の工夫、好みの飲み物を提供するなど、栄養バランスや水分量の確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを基本として、一人ひとりに合わせた支援を行っている。義歯洗浄や不具合調整、誤嚥性肺炎の予防も兼ねて訪問歯科にも協力を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄チェックを行うことで排泄パターンを把握し、排泄の失敗を少なくする努力を行っている。また、可能な限りおむつなどを使用せず、個々の身体状況に応じた支援を行っている。	現在、自立している利用者も多く、職員のコマメな声かけ誘導で排泄の自立の継続を支援している。おむつやポータブルトイレは使用しない方針を取っており、入居時におむつ使用だった利用者もトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品などを毎日摂取していただき、補水には気をつけている。また、朝夕の体操や日中のレクリエーション、生活リハビリや腹部マッサージなども行っている。		

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に週3回の入浴となっているが、希望があれば毎日の入浴も可能である。また、利用者の体調に合わせて、足浴や清拭など対応している。	基本的には決まっているが、利用者の希望や身体状況に応じて柔軟な支援を行っている。家族が温泉に連れていく利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調などにより、休息の時間を設けている。また、夜間に眠れない利用者には、自室に限らずソファにて仮眠が取れるように見守り支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服情報を参考に、内服の理解と確認ができるように支援している。処方変更があった場合は、内服変更ノートにより全職員で確認を行い、口頭でも申し送りを行っている。また、誤薬などを防ぐために2重チェックシステムを作り徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事や得意な事、好きな事などを見つけ、そこから役割を作り出していくように声かけや働きかけを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に応じて、職員同行にて散歩や買出しなど外出支援を行っている。また、季節を感じられるように近隣の公園や花見、ドライブや神社参拝、ご家族との外出や外食をお勧めし、楽しい時間を過ごして頂けるように支援している。	日常できるだけホーム内に閉じこもらないように、散歩や買い物、ときには庭でお茶をしたり家庭菜園の手入れをしたりして気分転換を図っている。気候のいいときにはお弁当持参で季節の花見に出かけ、外食（ファミリーレストラン、うなぎ、うどん・そばなど）も楽しんだりしている。	

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族と協議の上、基本的に事業所の立替払いとなっているが、利用者の希望に合わせて一緒に買い物に出かけ、その支払いを本人が行えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自由に電話や手紙のやり取りをして頂いている。また、ご家族への年賀状や暑中見舞いなど、定期的な近況報告ができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空調にて気温や湿度の管理を適切に行なうと同時に、カーテンや簾を利用して採光の調整も行なっている。また、季節の花を生けたり、利用者が作られた各月の習字や壁画などを掲示する事で季節感を感じられるようにしている。</p>	<p>共用空間を中心に居室があり、夜勤時でも職員は見守りがしやすい造りである。採光を確保できるように天窓が設けられ、玄関も広く過ごしやすいいりびングである。テレビの前には座り心地を考慮したソファが置かれている。フロアに飾ってある利用者の手作りの作品などからも季節感を感じることができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳部屋やテレビ前のソファ、庭のベンチなど共有スペースにて談笑などを楽しまれている。また、気の合う利用者同士がゆっくりと過ごせるような配慮も行っている。</p>		

鹿児島県 グループホーム愛愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の写真や馴染みの家具、装飾品（ぬいぐるみ、位牌）などを持参して頂き、居心地よく過ごせるように工夫を行っている。</p>	<p>入居の際に、使い慣れたものやなじみの物品を持ち込んでもらえるように家族に説明している。読書や書き物が好きな利用者の居室には机といすが持ち込まれ、タンス・回転イス・位牌・ラジオ・家族の写真などで居心地良く過ごせる居室の配慮がなされている。基本はフローリングであるが希望があれば畳敷きも可能である</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室などには大きな張り紙、居室には花の表札など工夫した環境作りを行っている。また、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全で自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム愛愛

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム愛愛

66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない